

ガイドダンスカウンセラーの挑戦

1

未然防止のガイドダンスカウンセラー

日本スクールカウンセリング推進協議会理事

加^か勇^{ゆう}田^た修^{おさむ}士

1 スクールカウンセリングの新しい流れ

(1) いじめの現状

文部科学省は二〇二〇年十月二二日、「二〇一九年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の結果を公開した。いじめの認知件数は、前年度より六万八五六三件増え、過去最多の六一万二四九六件となった。

旧文部省の「スクールカウンセラー活用調査研究委嘱事業」が導入（一九九五）されて二五年経過したが、いじめや不登校が依然として増えつづけている。個別対応、事後対応という治療的カウンセリングの側面が強く、医療モデルに近い取り組みの限界が指摘されるようになった。筆者は、教育相談に関する調査・研究協力者会議（二〇一五年十二月～二〇一七年一月、文科省）に委員として加わり、問題の発生を未然に防ぐ予防・開発的カ

ウンセリング、集団対応の取り組みを増やすことを強調してきた。最終報告の中には、スクールカウンセラーとしては、臨床心理士だけでなくガイドダンスカウンセラーも導入すること、スクールソーシャルワーカーの活用など、今後は教育相談コーディネーターを中心としたチーム対応が必要であることが盛り込まれた。例えば、いじめ当事者への個別対応だけではそれを傍観していた児童・生徒の存在、学級経営の問題が解決しなにかぎりいじめはなくならない。いじめや不登校が生まれやすい学級や学校の風土を改善していくための取り組みが必須である。

(2) 期待されるガイドダンスカウンセラー

ガイドダンスカウンセラーは、文部科学省「スクールカウンセラー等活用事業に関するQ&A」（二〇二〇年十月）で、「心理及び学校教育に関して専門的な知識・経験を有する者」として例示されるなど、スクールカウ

ンセラーならびに教育相談コーディネーターとして、ますます注目されている！日本スクールカウンセリング推進協議会では、各教育委員会へガイドダンスカウンセラー採用に向けた働きかけをさらに注力している。

2 未然防止の取り組み

(1) 「都立定時制高校中退予防対策としてのグループエンカウンター事業」

平成二五年度の都立高校の中退者は、全日制で1・2%、定時制で11・8%だった。定時制は全日制の十倍以上である。学年別の割合は、一年28・8%、二年13・2%、三年8・3%、四年2・6%であり、入学後の早い段階での中退者防止対策が求められていた。

東京都教育庁指導部高等学校教育指導課は、「グループエンカウンター事業」を平成二七年度から立ち上げるために、平成二七年三月下旬に早稲田大学河村茂雄研究室にガイドダンスカウンセラー派遣等のコーディネートを依頼してきた。趣旨は、定時制高校中退者の数を減らすために「自分の気持ちや考えを適切に伝えたり、相手に思いやりを持って受けとめたりする」グループエンカウンターを通して「居場所をつくる」というものだった。コーディネーターとして、当時河村研究室に在籍して大学院客員教授であった筆者が担当することになり、他のガイドダンスカウンセ

ラー十三名とともに構成的グループエンカウ
ンター（以下SGE）の実践が始まった。

(2) 定時制における構成的グループエンカウ
ンターの必要性

定時制高校に入学してくる生徒の多くは対
人関係が苦手である。中退する生徒は、自分
の居場所をつくることができないうちに学校
をやめていく。①自分が思っていることを素
直に表現できない。②友人関係を気にして、
本音を語れない。③表面だけの付き合いで自
分の内面を打ち明けることができない。④相
談し合ったりできる友人がいない。⑤自分の
言葉で相手が傷ついたことに気がつかない。
以上の問題をかかえながらも、入学直後の早
い段階でクラスに溶け込むことができれば中
退を防ぐことができる。そのしかけが必要で
ある。

(3) 構成的グループエンカウター事業の目 的・方法・結果

構成的グループエンカウターは、「自己
理解」「他者理解」「自己受容」「感受性の促
進」「自己主張」「信頼体験」をねらいとする
課題（エクササイズ）を体験し、シェアリン
グでの気づきを通して個人の心の成長を図
り、仲間とのリレーションを深めることがで
きる。

〈各リーダーが用いたエクササイズ〉

リーダーとじゃんけん、リーダーを知るイ

エス・ノークイズ、質問じゃんけん、他己紹
介、二者択一、君ならどっちがうれしい、非
言語による伝言ゲーム、ビンゴ・ゲーム（担
任が好きな食べ物飲み物）、バースデーライ
ン、アドジャン、ネームゲーム、新聞紙タワ
ー、気になる自画像、私のエゴグラム（予想）、
実際のエゴグラムとの比較、エゴグラムと職
業との関連、キャリア二者択一、店長会議、
振り返り。（各学校の事情により、四五〜一
二〇分の時間帯で展開したので、これらの中
から三〜五のエクササイズを使用した。）

最後に生徒たちが書く振り返りカードの集
約、SGE担当の教員からの報告、リーダー
（ガイダンスカウンセラー）からの報告をも
とにして結果をまとめた。

〈結果〉

SGE担当教員からの一年目の報告（一部抜粋）
は下記のとおりである。

- ・教員、生徒にとってグループエンカウターとい
う手法の授業が認知される貴重な機会であった。
- ・グループエンカウターの手法をとることによっ
て、ふだん接点のない生徒どうしが話し合い、お
互いを知る機会をつくることができた。生徒間の
他者理解ができる機会をつくることで、クラスと
いう集団の成長につながった。
- ・グループエンカウターの手法によってだと一緒
になっても大丈夫であることが認知され、生徒
自身にも自分のことが理解される喜びが感じられ
る時間になった。

・次回以降の活動では、必ず違うメンバーでグルー

プを構成させ、非日常的空間を常に用意し、刺激
を与えることが重要である。

・ほとんどの生徒たちは、活動に積極的に取り組み、
楽しんでいった。

・教員に入ってもらい手を添えてもらうことによっ
て、生徒たちは、安心感をもって活動にあたるこ
とができていた。

・活動を行っていく中で、生徒間やクラス内での緊
張が少しずつとけていった。

・一度も話をしたことのない生徒どうしが交流をも
ち、ゲームを通してお互いに興味や関心があった
ことに気づく様子がうかがえた。また、活動終了
後も話している生徒が多く見られた。

・男女を必ず混ぜる構成によって、生徒間で緊張感
が生まれ活動が活性化していた。

・アドジャンでは、グループの中で分かりやすい表
現をする生徒がいたり、それを模倣して生徒が自
分自身の発表に生かそうとする姿が見られた。

(4) まとめ

一年目は、定時制五五校中五三校で生徒対
象のSGE、二校で職員対象のSGE校内研
修が実施され、91%の肯定的評価を得た。平
成二六年度の定時制中退者一五二四名に比
べ、二七年度は一三二二名に減り、二八年度
からは一校につき年三回の実施となった。七
年目の現在もこの事業は継続されている。

参考・引用文献

- ・國分康孝・久子、片野智治、岡田弘、加勇田修士、
吉田隆江共著『エンカウターとは何か』図書文
化、二〇〇〇年。
- ・國分康孝総編集『構成的グループエンカウター
事典』図書文化、二〇〇四年。